

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
急性期・周術期看護論演習		BNNSS4E32	30703	2後	1(30)	必修
担当教員	田口 豊恵	実務歴	有	看護師として病院に13年勤務		
担当教員	田村 葉子	実務歴	有	看護師として病院に10年勤務		
概要	急性期・周術期看護論の講義をもとに、急性期・周術期にある患者のアセスメント技術、看護技術について学ぶ。また、周術期患者の事例を通して、看護過程の展開方法について学ぶ。					
学修目標	1)急性期・周術期患者のモニタリングとアセスメント方法を挙げることができる。 2)急性期・周術期患者に必要な看護技術を実践できる。 3)看護過程の構成要素を理解し、模擬患者の看護過程を展開することができる。					
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習内容(上段) 復習内容(下段)		
1	周術期のモニタリングとアセスメント技術①			胃がんのクリニカルパスについて不足していたところを加筆する		
2	周術期のモニタリングとアセスメント技術②			胃がん術直後のモニタリングの種類と観察項目不足していたところを加筆する		
3	周術期に必要な看護技術①(術後ベッド)			術後ベッドに必要な物品とその根拠について不足していたところを加筆する		
4	周術期に必要な看護技術②(早期離床)			早期離床の意義・効果について不足していたところを加筆する		
5	周術期に必要な看護技術③(創傷処置・ドレーン管理)			ドレーン管理について不足していたところを加筆する		
6	周術期に必要な看護技術④(気管吸引)			気管吸引(閉鎖式)にの方法・留意点について不足していたところを加筆する		
7	周術期に必要な看護技術演習①(術後ベッド、早期離床)			(予習)ナーシングスキルを視聴し、手順等を再確認しておく。 (復習)不足していたところ加筆する		
8	周術期に必要な看護技術演習②(創傷処置・ドレーン管理)					
9	周術期に必要な看護技術演習③(気管吸引)					
10	看護過程の展開①(概念・情報の整理)			情報の整理の追加・修正		
11	看護過程の展開②(解釈・分析)			解釈・分析の追加・修正		
12	看護過程の展開③(診断仮説・照合・確定診断)			診断仮説・照合・確定診断の追加・修正		
13	看護過程の展開④(統合関連図・問題リスト)			統合関連図・問題リストの追加・修正		
14	看護過程の展開⑤(看護計画)			看護計画の追加・修正		
15	看護過程の展開⑥(SOAP・看護計画の修正・追加)			看護計画、SOAPの追加・修正		
使用テキスト	1)「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020」医学書院 2)その他、急性期・周術期看護論に準ずる。					
参考図書	急性期・周術期看護論に準ずる。					
成績評価基準	定期試験100%					